

8月22日(金)今日は足慣らしの日で、近くのゴープ湖へ日帰りハイキングを行う。

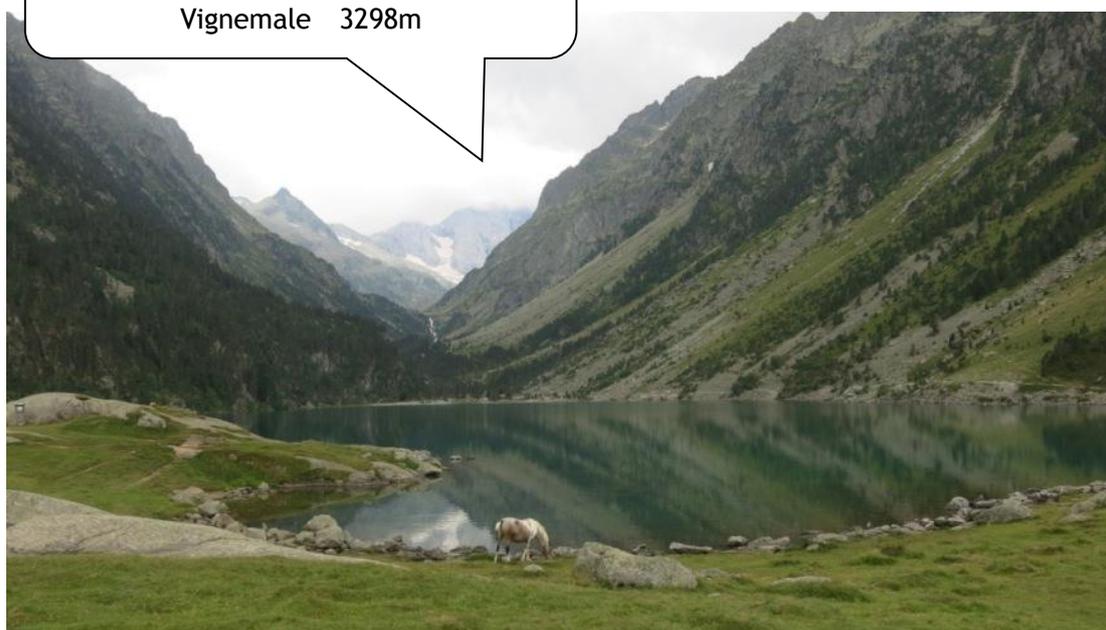


最初はゆるやかな登山道を進む



今日明日の2日間はフランス人ガイドのフィリップに案内して貰う、こうもり傘が彼のトレードマーク、左は筆者・浅野

雨雲で隠れているが、ピレネー山脈
フランス側最高峰 ヴィーニュマル山 Le
Vignemale 3298m



ゴープ湖 Lac de Gaube 標高 1725m

馬と戯れたあと、湖の右側の道を通って前方に小さく見える滝の方へ更に進んでいく。



雨雲で覆われたヴィーニュマル山



野生のカモシカ

ここからしばらく登ったところで雨が降り出し、滝まで到達することなく引き返すこととなった。少し下ったところで雨がやんだので、弁当を食べて下山する。帰路では、往路で通らなかったスペイン橋 Pont d'Espagne を見学する。(雨で写真がうまく撮れなかった)

実は、フィリップより前を歩いていた筆者を含む数名は、スペイン橋への分岐で誤った方向に行ってしまう、呼び戻されて先頭だった筆者はイエローカードをもらう。

筆者は今回のツアーの少し前に痛風の症状が出たため、登山はあきらめて(スーツケースと一緒に下界を移動)観光だけにしようかと思っていたが、昨日あたりから痛みがすっかり引き、こうして元気に登ることができた。ひょっとして、ルルドで飲んだ「奇跡の水」のおかげかもしれない。ありがとうマリア様。

今日の夕食は魚料理、もちろんワインを飲む。「痛風にはワインが効く」と言われている。



コトレ泊

8月23日（土）コトレからガバルニーへ移動し、大圏谷へのハイキングをする。



左：子供たちはロバに乗って平坦路をガバルニー大圏谷へ

下：25日に越える国境の峠「ローランの裂け目」が見えた

Brecha de Rolando
2807m



ローランの
裂け目



ガバルニー大圏谷に向かって徐々に下る、我々はあえて起伏のある峠越えルートをとった。徳本峠を越えて上高地へ入るようなものだ。それほど大袈裟なことではないだろうか？

ガバルニー大圏谷



413m の高さから流れ落ちる滝（このあと滝壺まで登る）と 自然の円形劇場

ガバルニーは、はるか昔から人々の驚愕の的であった。16世紀以来、冒険や感動を求めてやってきた植物学者や科学者、小説家、画家、詩人、山岳家たちがその基礎を築いたのだ。ヴィクトル・ユーゴは、詩「神」のなかで、ガバルニー大圏谷を「途方もなく不可解な物体」「自然のコロセウム」と形容した。ガバルニーを含むこの地域全体が1997年にユネスコの複合遺産（文化遺産と自然遺産）に登録されたのである。今夜の宿泊地ガバルニー村は、サンチアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼街道の途中にあり、その教区教会も文化遺産となっている。巡礼街道については、9/7のBS-TBSの番組「平岳大-スペイン横断800kmの旅」で私なりに理解できたので、この旅行記のなかで追々記述するつもりでいる。因みに、平岳大は平幹二郎と佐久間良子の息子です。

ガバルニー大圏谷からホテルへの帰路のできごと。女性陣が珍しい花を見つけ、すわ新種発見かと色めき立った。宇野さんが撮った写真をフィリップに見せ、彼の持っている高山植物図鑑で調べてもらったが見つからない。しばらくして、後ろから追いついてきた田中さんから驚きの発言が！！ 発言の内容はCM2のあとで。

CM 「海外山岳ツアーは天溪にご用命ください、美味しいワインもあります」

田中さん曰く「あの花を手で触ってみたら、表面が布で裏がプラスチックの造花だった」と真相を語り、一同大爆笑となった。

このきのこは本物です



明日からピレネー山脈の核心部分に入るが、フランス人社会学者アンリ・ルフェーブルは、彼の著書「太陽と十字架（原題：ピレネー山脈）」で次のように述べている。

「ピレネー山脈は、フランスからやってきてスペインへ向かう旅人には越え難い障壁として立ちはだかる。それは地平線を遮っている。ひとは谷間に入るとすぐに立ち止まらねばならない。谷間は門をかけられたように鎖されているのだ。目の前にはもはや激流と滝しかなく、驃馬と山羊の通う道がほそほそとそれに沿って続いているばかりだ。」

・・・昨日のスペイン橋付近が正にそうだった。

「この山脈の西部と東部にいるバスク人とカタルーニャ人は、（それぞれ南北に）分割され、ついで社会的政治的な統一体に、異なった国民と国家（スペインとフランス）に統合されてしまった。だがピレネー山脈の両端から中央にいたるまで、住民は互いに類似している。ピレネー山脈においては、国境というのは政治的、法律的な虚構である。」

・・・明後日の国境越え（ローランの裂け目）で何かを感じるのではなかろうか。

スペインのカタルーニャ自治州（州都バルセロナ）では、11/9に国からの独立の是非を問う住民投票が行われる。英国でのスコットランドも同様だ。

「（アラゴン地方の）オルデサの国立公園の方へ行くなら、南の方で高峻な山岳群の1つ、モン・ペルデュ群山とマルボレ群山に接する。北はガバルニーとトルームーズの圏谷、南はアラサスの峡谷である。この全体は国境と分水嶺によって切断されているが、規模ではアルプスに匹敵する。激流が赤い大理石に穴をあけてつくったこの峡谷、それに圏谷はそれ自身に固有の何ものかをもっている。」

・・・来し方、行く末に思いを馳せて。

ガバルニー村の Hotel Le Marbore 泊